# 再 評 価 調 書

I 事業概要												
事	業名	農業農村整備事業(経営体育成基盤整備事業)										
地	区名	中根新田地区										
事	業箇所	所 西尾市中根町、巨海町、刈宿町										
	業のあ	本地区は、西尾市の西部に位置し、一級河川矢作川河口部に広がる低平水田地帯であり、水稲										
		を中心とした営農が展開されている。 本地区の農地は、1955 年頃に整備が行われているものの、区画は20aと小さく、末端の用排兼										
事		用水路は堰板による日々の水位管理や老朽化の進行による維持管理に多大な労力を費やしてお										
i,	らまし	り、営農に支障をきたしている。										
		このため、本事業により区画整理を行うことで農業の生産性の向上を図るとともに、担い手への農地利用集積を保護し、大地域の農業業分割の改化を図ることを見からして、2010年度から実										
		の農地利用集積を促進し、本地域の農業競争力の強化を図ることを目的として、2019 年度から実施し、2026 年度に完了する予定である。										
		【達成(主要)目標】										
		農業生産基盤の整備により、高収益作物への転換、水田の畑利用の促進を図り、担い手農家へ										
事	業目標	の農地利用集積を促進し、農業経営の改善・安定を図る。										
		【副次目標】 なし										
				事前評価時(2018)	再評価時(2024)	変動要因の分析						
		事業期間		2019~2024	2019~2026	地元調整による事業期間の 延長						
		事業費 (億円)		19. 2	22. 3							
計画変更		<b>4</b> ∀ #	工事費	16. 3	19. 2	労務資材費の増(2018 年単価 →2024 年単価)						
	四友史 D推移	経費 内訳	~   田福智	0. 2	0. 2							
			その他	2. 7	2. 9	労務費の増(2018 年単価→ 2024 年単価)						
		事業内容		区画整理 75.5ha	区画整理 75.5ha							
				整地工 75.5ha	整地工 75.5ha							
				用水路 12.0km   排水路 9.9km	用水路 12.0km   排水路 9.9km							
П	 評価			MANAGE C. OTHER	1/1/1/1/ U. UIUII							
	1) 必要		【事前評価問	寺の状況】								
	の変	化										
			区画が 10a から 20a と狭小で作業効率が低く、老朽化した用排兼用水路での水管理に多大 な労力を要していることから、担い手農家が安定的な営農を継続できる生産基盤整備が必要									
1			である。									
事業			【再評価時の状況】									
木のツ			未整備の区域では、区画整理および用水路、排水路が必要な状況が継続している。 【変動要因の分析】									
必要			【変期安囚の方析】   未整備の区域が効率的な営農の支障となっており、事業の必要性は依然として高い。									
事業の必要性の変化			A:事業着手時に比べ必要性が増大している。									
変化			В	B:事業着手時に比べ必要性にほとんど変化がない。								
	判定			C: 事業着手時に比べ必要性が著しく低下している。								
		【理由】										
		担い手農家の意欲は変化しておらず、必要性は事業着手時と同等である。										

1) 進捗状況       【事業計画及び実績】         2019       2020       2021       2022       2023       2024       202         調査設計	5 2026	-							
田地補償 工事 区分 ・用水路工 ・排水路工 ・整地工 ・整地工 ・整地工 ・当初計画 ま業費 (億円) 「億円) 「億円) 「金渉率】  「金渉率】  「金渉率】  「金渉率】  「おいる は、アート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19. 2	-							
工種       工事         ○ 用水路工       ○ 排水路工         ○ 整地工       ● 当初計画         事業費 (億円)       第 積 4.7         今回計画       4.7         (進捗率】	19. 2	  							
区分       ·用水路工         ·排水路工       ◆         ·整地工       ◆         事業費 (億円)       当初計画       15.7       3.5         実績       4.7         今回計画       4.7       17.	19.2	- - -							
・排水路工       ◆         ・整地工       ◆         事業費 (億円)       当初計画       15.7       3.5         実績       4.7         今回計画       4.7       17.         (進捗率】       15.7       17.	19. 2								
・整地工       事業費 (億円)     当初計画 15.7 3.5	19.2								
事業費 (億円)     当初計画     15.7     3.5       実績     4.7       今回計画     4.7     17.	19. 2								
事業費 (億円) 実績 4.7 今回計画 4.7 17.	19. 2	_							
(億円) 実績 4.7 今回計画 4.7 17.									
今回計画   4.7   17.     (進捗率)     (進捗率)	4. 7								
【進捗率】	6 22.3								
#   = L + - 0 = 1 = L + 2 t +	【進捗率】								
<b>業</b> これまでの計画に対する達成状況	全体進捗率								
が進     計画     実績     達成率       歩     【①】     【②・①】		ず率 ÷③】							
これまでの計画に対する達成状況       計画 実績 達成率 [①]       投援     では       大次     (2)       大次     (2)       大次     (2)       本     (2)       本     (2)       本     (3)       本     (3)       本     (3)       本     (3)       本     (4)       大     (4)       (5)     (4)       (6)     (4)       (7)     (4)       (7)     (4)       (7)     (4)       (7)     (4)       (7)     (4)       (7)     (4)       (8)     (	75.5	57%							
事業費(億円)   19.2   4.7   24%	22.3	21%							
	19.2	19%							
用補費	0.2	0%							
その他   2.7   1.1   41%	2.9	38%							
【施工済みの内容】 ・区画整理 A=43.2ha 【事後評価に準ずるフォローアップ】 該当なし。									
	りも単年度あたりの工事範囲が狭い範囲に限られることとなったため、事前評価時から事業								
3) 今後の 【阻害要因】									
事業進 なし。   捗の見【今後の見込み】									
	ウマカロ じょ								
	元」を口担り。								
事業のの進 B: 次のいずれか(該当する項目に「〇印」を付け ・これまで事業は順調である。今後は多少の阻害 一定の 期間等を要すれば、解決できる見通 完成が見込まれる。 ・これまで事業長期化していたが、事業期間を は阻害要因がなく、ほぼ計画通りの完成が見 これまでの事業長期化により、事業期間を延	確実な完成が見る	入まれる。							
の B: 次のいずれか(該当する項目に「〇印」を付し	B: 次のいずれか(該当する項目に「〇印」を付ける)								
進   ・これまで事業は順調である。今後は多少の阻害	・これまで事業は順調である。今後は多少の阻害要因が見込まれるものの、								
一定の 期間等を要すれば、解決できる見通	一定の 期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの								
び   判定   日 ・これまで事業長期化していたが、事業期間を									
□ は阻害要因がなく、ほぼ計画通りの完成が見	は阻害要因がなく、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。								
	(・)これまでの事業長期化により、事業期間を延長した。今後も多少の阻害								
	要因が見込まれるが、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる								
	り、はは計画通りの元成が見込まれる。 C: 阻害要因の解決が困難で、現時点では、事業進捗の目処がたたない。								
り、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。	り、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。								

		【理由】 今後阻害要因はなく、計画通りの完了を目指すため。								
	1)貨幣価値化可能な効	【貨幣価値化可能な効果(費用対効果)分析の算定基礎となった要因変化の有無】 事前評価時からの大きな変化はない。 【貨幣価値化可能な効果(費用対効果)分析結果】								
	果(費用対効果	区分			事前評価時 (基準年:2018)	再評価時 (基準年: 2024)	備考			
	分析結	費用(億円)	当該事業による費用		15. 0	20. 8				
	果) の変 化		その他費用 注)		11.8	15. 7				
	IL		合計 (C)		26. 8	36. 5				
		効果(億円)	作物生産効果		15. 8	22. 9				
			品質向上効果		0. 4	0. 4				
			営農経費節減効果		10. 0	12. 2				
			維持管理費節減効果		△0. 4	△0. 7				
			耕作放棄隊		0.0	0.0				
			国産農産物	物安定供給効果	4. 0	5. 7				
				合計 (B)	29. 8	40. 5				
			(参考)	水稲作付面積(ha)	71. 3	71. 3				
			算定要因	普通畑作付面積(ha)	0. 7	0. 7				
③ 事業の効果の変化		費	用対効果分	·析結果 (B/C)	1.1	1. 1				
	2) 貨値難果化	費用対効果分析結果 (B/C) 1.1 1.1 1.1 1.1 ※金額は、社会的割引率(4%)を用いて現在の価値に換算したもの。 ※評価期間:48年(当該事業の工事期間8年+40年) 注)その他費用の内訳 ①当該施設 再整備費+事業着工時点の資産価格一評価期間終了時点の資産価格 ②当該施設と一体的に効用を発揮する関連施設(頭首工及び幹線水路等) 新規整備費+再整備費+事業着工時点の資産価格一評価期間終了時点の資産価格 【貨幣価値化可能な効果(費用対効果)分析手法】 「新たな土地改良の効果算定マニュアル」(2015年9月農林水産省農村振興局企画部土地改良企画課・事業計画課監修)に基づき算定。 【変動要因の分析】 前回評価時の状況】 該当なし。 【事前評価時の状況】 事前評価時には計上しなかったが当初から発現が見込まれる効果として、生産性の高い農地を担い手に集積し、高収益な営農が将来に亘って継続されることにより、食料の安定供給が確保されるとともに、農地の保全が図られ、地域経済及び地域社会の持続が期待できる。 【変動要因の分析】 該当なし。  A:前回評価時とほぼ同様の事業効果が発現される見通しがある。 B:前回評価時ととに低下が見られるが、十分な事業効果が確保される見通しがある。								
	判定	C:前回評価時と比べ著しく低下し、現時点では事業効果が確保される見通しが立たない。 【理由】 事前評価時(2018年)から大きな変化はないため。								

# Ⅲ 対応方針(案)

中止:上記①~③の評価で一つでもC判定があるもの。 継続

継続:上記以外のもの。

### IV 事後評価実施の有無と主な評価内容

■対象(事業完了後5年目) □対象外

【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】

### 【主な評価内容】

・営農状況及び担い手農家への農地利用集積率の確認

### V 事業評価監視委員会の意見

中根新田地区の対応方針(案)[事業継続]を了承する。

### VI 対応方針

事業継続